

医者も知らない平穏死



連載62

「平穏死」を希望する皆さんへ、「元気なうちにやっておくべきこと」をまとめて紹介しましょう。

まず、「**看取りの実績がある在宅医を探す**」こと。在宅療養支援診療所の看板を掲げている、看取りの実績が少ない、あるいはゼロの医療機関が少なくありません。「訪問診療」だけではなく、求めに応じて「**往診**」もしてくれる

確実に畳の上で死ぬ方法

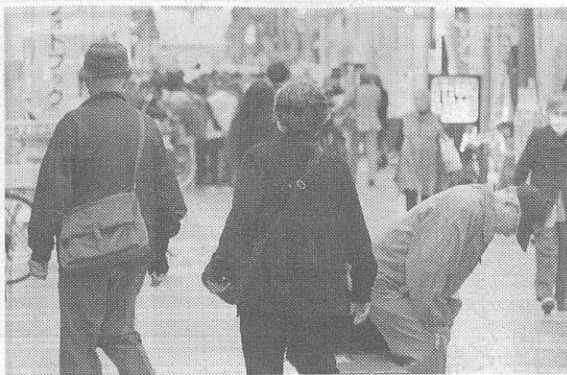
在宅医を探しておくのです。相性も大事ですから、風邪などの軽い病気で「面接」をするのも手です。

次に、「**家族と元気がうちから死について何度も話し合っておく**」。もしもの時、何を希望するのか？胃めたが、管だらけの植るうは？人工呼吸器物状態になった」ケースは珍しくありません。

平穏死を望んでいても、意識がない状態になったらそれを主張できません。医師の提案にイエスカノーと言いつながる場合があります。意見が食い違うこともありますが、時間をかけて、お互いの意見の終着点を見いだしておいてください。

「**救急車を呼ぶ意味を考える**」ことも重要です。これは特

に、老親がいる場合です。看取りの寸前で急変した時、救急



△長尾和宏△長尾クリニック院長。日本尊厳死協会副理事長。著書に『平穏死』10の条件」など。